

2024 第1回駿台学力テスト 中2 出題のねらい【英語】

今回は中2の最初のテストということで、長文2題の読解問題と5題の文法・客観問題の構成であり、文法・客観問題は、基本問題と応用問題を合わせた内容になっています。

1 長文読解問題(物語文)

キツネの夫婦がエサを集めて5匹の子ギツネたちが待つ巣穴に帰る途中、運悪く1頭のトラに出会ったが、キツネの妻が機転を利かせてトラをだまし、キツネの家族全員がトラに食べられずに済んだ、という話です。問4の内容説明は、本文の第3段落～第7段落の内容をまとめます。「トラをキツネの家族の棲む巣穴に連れて来たこと」と「キツネたちは(巣穴の)奥深くに隠れたこと」の2点が正解のポイントとなります。問6の適語選択・語形変化は、まず本文全体の話の内容の読み取りが必要です。さらに、中1ですでに学習した一般動詞の過去形(不規則動詞を含む)や過去進行形の文法事項を理解していることが必要です。本文全体の内容の大筋を読み取ることができれば、ある程度の得点を得ることができるかと思います。

2 長文読解問題(物語文)

女子大生のメアリーがベビーシッターの仕事で訪れたブラウン家で、突然かかってきた無言電話や数回にわたる気味の悪い電話に恐怖を感じ、警察署に通報した、という話です。問2の和訳の最初のポイントは、一般動詞 take の過去形 took を「(時間が) かった」と訳していることです。さらに、主語 It が指す具体的な内容を、「子供たちを(9時に)寝かしつけること」としていることもポイントになります。問6の内容把握は、下線部(5)の具体的な内容を表す日本文の空所に入る算用数字と日本語を答える問題です。その内容は第5段落～第6段落に書かれています。1よりやや長めの長文ですが、全体としては流れをつかみやすい物語文だと思います。

3 連立完成問題

1・3・4は中1の学習事項からの問題です。2は問題の解説にもあるとおり、<～belong to+目的格の代名詞(…)>「～は…のものだ」を<～be 動詞+所有代名詞(…)>に書き換える問題で、疑問詞も who を whose にします。また、5は今回の出題範囲の助動詞 must の否定形 must not[mustn't]「～してはいけない」を用いる問題です。

禁止の命令文を You must not[mustn't] で始まる文に書き換える問題は、よく出題されます。全体では、2以外はさほど難問ではないので、正解を得やすいと思います。

4 書き換え問題

1～3は、今回のテストの出題範囲からの問題です。1は過去進行形の問題ですが、lie「横たわる」のing形のlyingのつづりがポイントです。2はhave to～「～しなければならない」を用い、didn't have to～「～する必要はなかった」という過去形の否定文にします。3は助動詞willを用いた未来形の文にします。4は疑問詞how「どうやって」を用いた疑問文にします。いずれの問題も基本的な文法事項を確認する問題なので、正解を得やすいと思います。

5 誤文訂正問題

1と4は前置詞の誤り、2は単複同形の名詞、3は進行形で表すことができない文についての出題です。いずれも細かい文法知識が必要とされる、少し難しい問題です。

6 整序英作文問題

1は過去進行形の疑問文です。「昨夜10時に」は「昨夜のうちの(午後)10時」ということになるので、at ten last nightの語順にします。2は助動詞willを用いた未来形の文に、have to～「～しなければならない」を用いた文にします。1つの文に2つの助動詞を重ねて用いることはできないので、mustの同意表現のhave toを用います。3は禁止を表すmust not～「～してはいけない」を用いた文で、「夜更かしをする」はstay up lateで表します。4は予定を表すbe going to～「～するつもりだ」を用いた文で、「留学する[海外で勉強する]」はstudy abroadとします。

7 語い・発音問題

(A) 1～4はいずれも基本的な単語の知識を問う問題です。2のcousin「いとこ」はスペルを間違えやすい語なので、しっかり覚えましょう。

(B) 発音問題はふだんあまり対策がなされていないので、全般的に正解率が低い傾向にあります。2以外は4つとも同じ文字(列)に下線部がありますが、単語によって、同じ文字(列)でも発音が異なるので、発音記号で正確な発音を覚える習慣を身につけましょう。

2024 第1回駿台学力テスト 中2 出題のねらい【数学】

基本的な計算問題から応用問題まで出題しました。新しく習った単元の連立方程式に関しても、文章題にしたり、関数や図形の中で方程式を立てたりなど、様々な見せ方をするように工夫しました。自分の解答用紙や計算の途中式、解答解説集を駆使して、できなかったポイントをつきつめる習慣をつけてください。

1 計算問題（多項式の加減、単項式の乗法、式の値、複雑な連立方程式）

4問とも中2内容の標準的な計算問題です。(2)は、もとの式を簡単に整理してから代入した方が計算が楽になります。同様に(4)の $A=B=C$ 形の連立方程式を2つの式に直すときも、組み合わせによって解法や計算の手間が変わってきます。よりよい組み合わせを見つけることができたか、確認しておきましょう。

2 小問集合（比例と反比例、文字式による説明、1次方程式、連立方程式、円錐の展開図、球の表面積）

(1)は比例・反比例の問題ですが、等式変形および連立方程式の解法の知識を必要とします。(2)、(3)はどちらも、問題文の誘導にそって考えていけば解け、比較的易しめに設定しました。(4)は、円錐の側面のおうぎ形の中心角が 90° であることに着目し、おうぎ形の半径と底面の円の半径の比を求められるかを問う問題です。

3 関数と図形（座標上の三角形の面積、比例と反比例、反比例のグラフ、点の個数）

比例・反比例の融合問題です。(1)は、点A、Bの x 座標の絶対値が等しいことを $\triangle ABC$ の面積にどうつなげられるかが鍵となります。なお、比例のグラフと反比例のグラフの交点が2個ある場合、つねに x 座標の絶対値は等しくなります。(2)は、(1)の結果を用いて a と b の関係式をつくることを目標にします。点Aの y 座標を2通りで表しましょう。(3)は個数が多いですが、 x の値は $0 \cdot 1 \cdot 2 \cdot 3$ の4通りにしぼられます。場合分けをして、条件に合う点をもれがないように調べることが大切です。

4 平面図形（平面上での図形の回転、おうぎ形の面積）

直角三角形と回転移動を題材としています。線分のみを回転させることはあまり扱わないため、戸惑った人もいるかもしれません。(1)は基本問題ですが、(2)、(3)は応用力が必要な問題で、類題を解いたことがないと難しく感じたと思います。

5 文字式の利用（文字式による説明，1次方程式の利用，整数の並び替え，連立方程式の利用）

11の倍数の見分け方に関する問題を出題しました。★で示した結果を覚えておくと，活用できる場面はあるかもしれません。(1)は，文字を使った説明問題です。問題文は長いですが，ていねいに1つずつ空欄をうめていきましょう。(2)は★を利用できるかを問う問題，(3)はチャレンジ問題です。

6 空間図形（文字式の利用，単項式の乗除，三角錐の体積，空間内の最短経路）

直線AGが面GEFに垂直であることに気づけるか，が最大のポイントです。(1)は(2)の誘導問題として作成しました。(3)は，ひし形の面積を求める公式を用いて正方形の面積を求めることで， x^2 を a で表すことが可能になります。

2024 第1回駿台学力テスト 中2 出題のねらい【国語】

二年生の一学期という時期に合わせて、漢字やことばの基本的な知識問題、随筆文と論説文のオーソドックスな読解問題を出題しています。この形式によって、現在の総合的な国語力の診断ができるようなテストになっています。読解問題の設問の種類も、選択・抜き出し・記述と基本的なものを揃えましたので、苦手な設問の克服に活用してください。

㊦ 漢字の読み書き

漢字そのものは特に難しいものはありませんが、ことばとして覚えておくべきものを出題しました。(1)の「画期的」は論説文などによく出てくることばなので、意味も覚えておきましょう。(3)の「損」・(4)の「怠」は訓読みにも、(8)の「募」は音読みにも注意して覚えておきましょう。

㊦ ことばの知識・用法

ことばについてのさまざまな基本知識は、国語力の根底をなすものです。折に触れてことばの知識を広く習得していくことで、読解力・表現力・ひいては作文などの論述力も確実に伸ばしていくことができるでしょう。総合的な国語力を着実に伸ばして欲しいです。問一は「不可」ということばの付いた熟語をどれだけ知っているかがポイントになります。問四はどちらも大人でも意味を間違えて覚えている人が多い慣用表現です。これを機に正しい意味を覚えましょう。また、問三の四字熟語も問五の慣用句は常識レベルの知識、問二の対義語は基本的な知識です。

㊦ 随筆文の読解……… 角田光代『大好きな町に用がある』より「縁と旅と人生の仕組み」

人気の小説家である筆者の、若い頃の旅の経験が自身の後の人生にどのような影響を与えたかについて語った文章を採り上げました。ツアーではない旅が持つ魅力、旅を終えて何年も時が経っても続いている人と人とのつながりの心地よさ、そのような内容についても感じ取ってもらいたいと思います。

問二の記述問題では、答えるべき複数の要素をしっかりと読み取れることがポイントになります。問八の記述問題は、本文からそのまま抜き出しただけでは解答にならないので、答えるべき部分を見つけたうえで、それらを設問に合わせてまとめられる記述力がポイントになります。この両問が正解できていれば、読解力も記述力もしっかり身に付いているといえるでしょう。

四 論説文の読解…………… 坂田宏志『ふしぎの博物誌』より「ヒトとアリの資源管理」

自然に対して、人間とアリが各々どのように関係をつくっているかについて語った文章を採り上げました。自然に対する人間の今後の向き合い方について、この問題文のような視点があることを知ってもらいたいと思います。

問一・問三・問五・問十は問題文全体に対する細やかな目配りができるかどうかポイントになります。また、問二は前提となる熟語の知識が必要となります。そして問六の記述問題は、アリが守るべきルールという視点で解答を考えることがポイントになります。この問題が出来ていれば、基本的な記述力が身に付いているといえるでしょう。